柏原市子どもの学習・生活支援事業
「まなび家(や)ほのぼの」

学科・専攻

関西福祉科学大学

福祉創造学科

担当教員

一村小百合・南　多恵子

連携先

柏原市 福祉こども部 福祉総務課
社会福祉法人柏原市社会福祉協議会

プログラム内容

・週2回の活動（毎週火・水曜日 午後6時45分より午後9時15分までの2時間30分）であるが、今年度は、水曜日のみ対面で開催を行った。指導時間は午後7時から午後9時までの2時間。

・生活困窮世帯や学力面や学習環境面において課題を抱える中学生に対し、高校進学に向けた学習の機会を提供することにより、生活困窮世帯からの脱却と自立促進を目的としている。具体的には、高校進学に向けて、福祉創造学科の学生が学習支援補助員として、中学生の学力向上、学習習慣の定着を目指した支援を行っている。また、地域における居場所となるようコミュニケーションを図り、交流などのプログラムも行っている。

・令和3年度から火曜日はリモート開催で行っていたが、設備環境が整わず、今年度の火曜日は中止。

成果・考察

・参加している中学生からは「解らなかった所が解るようになった」「解りやすく教えてくれた」「テストの点があがった」「雰囲気が良くて学びやすい」「優しい」「楽しい」「教え上手」「受験に合格した」等の感想を頂いている。年度初めや初回の参加時に一人ひとりの状況や目標を確認し、月ごとに学習支援計画を立てて進めていることや、学習支援員の元中学校教諭からの指導や助言を頂き、個別指導など時間をかけて行い、保護者からも高評価を頂いている。

・学生たちも「教えることの難しさや理解してもらった時の嬉しさなどが経験できた」「一人ひとりに対してもう少し手厚く支えたい」「人との接し方について考える機会となり、コミュニケーションの幅が広がった」「計画を立てて今後の行動を決めていく過程を学ぶことができた」等、教える難しさや課題もあるが、やりがいを感じ、共に学び合う気持ちをもって取り組んでいる。

関西福祉科学大学

福祉創造学科

一村　小百合　准教授

2016年から継続して行っている事業になりますが、学生たちが常に中学生一人ひとりの特長を理解しようと努力し、寄り添った関わりを行っている姿勢は、今後、対人援助職を目指す上で大きな力になることと思います。

また、学生たちは自主的に勉強会を開催したり、中学生の学習面や言動について意見交換し、今、自分たちに何ができるのか悩み考えながら取り組んでいます。

そのなかで、上級生から下級生へと指導を行ったりもしており、成長に繋がっていますし頼もしく思っています。

関西福祉科学大学

福祉創造学　3年生

水野　温さん（2025年3月現在）

ほのぼのに参加してくれる中学生と接していて感じることは、「自信の無さ」です。中学生が「解らない」という声に、何が解らないのか聞いていくと、実は理解できていて説明をしてくれます。本当は理解できているし、解ける力を持っているのに「できない」と思い込み、挑戦することを諦めてしまっていることが多いです。

私たちは支援補助員として、中学生たちが自信を持てるような関わり方を心掛けています。「それ、難しいよね～」「できてるよ！」等の肯定的な会話を意識し、一緒に考え、解けた時は一緒に喜びます。これが、居場所作りにも繋がっていると思っています。これからも、自信をどう引き出せば良いのか、自分たちにできることは何か、そして、居場所の作り方について、考えていきたいです。